



「妙高市民の心」作文 優秀作品集

最優秀賞

☆小学生1～3年生の部

「おばあちゃんの花ばたけ」

新井中央小学校 2年 ^{まつえだ}松枝 ^{ゆの}夢音

わたしのおばあちゃんは、お花が大すきでした。とてもひろいおにわになん十しゆるいもお花をうえてそだてていました。おばあちゃんの家に行くとお花ばたけをさんぽしながらとんぼつかまえをしたり、お花の名前を教えてもらったりしました。

わたしは、むらさき色のお花がすきですが同じむらさき色でも少しちがったりしてとてもきれいだなとおもいました。お花をみるととてもあかるい気持ちになりました。

わたしの家にはお花が少ししかありませんでしたが、わたしとおかあさんは、おばあちゃんにうえ方を教わって、毎年お花がふえていきました。げんかんを出るとお花が見えるので、あかるい気持ちで学校に行けます。

わたしのおばあちゃんは今年の八月になくなりました。今年もおばあちゃんのお花ばたけにはたくさんのお花がさいています。たのしかった思い出がたくさんあるお花をこれからも大切にそだてたいと思います。





優秀賞

☆小学生1～3年生の部

「あいさつの大切さ」

妙高小学校 3年 わかやま 若山 ほのか 穂乃香

わたしは、妙高市のスポーツクラブで、サッカーをしています。

し合が始まる前は、かならず、たたかう相手のチームの人たちとあいさつをかわします。ベンチと、見てくれているお父さんやお母さんにも、大きな声で、「おねがいします。」

と、れいをしてから、し合が始まります。そして、一日のし合がおわった後は、おうえんしてくれたお父さんやお母さんに、

「今日一日、おうえんありがとうございました。」

と、あいさつをして帰ります。

チームのみんなで、一生けんめいたたかった後のあいさつは、気持ちが良いです。また明日から、一生けんめい練習をがんばろうという気持ちになります。勝っても負けても、みんなえ顔で、サッカーが大好きです。

これからも、元気のよいあいさつをつづけようと思います。





最優秀賞

☆小学生4～6年生の部

「「ありがとう」の気持ち」

新井小学校 5年 ^{よしだ}吉田 ^{なおし}尚大志

ぼくは、新井ジュニアというチームで野球をしています。ポジションは、ピッチャー、キャッチャー、セカンド、ショートを仲間と交たいしながら守っています。

毎週何かの大会があり、すべての大会でゆうしょうすることを目標にしています。

毎日、自主練習で素ぶりを一百五十回しています。でも、家ではできることが、試合になるとできないときもあります。練習では遠くに飛んでいく打球も、いざ本番になると、内野ゴロで相手にとられたり、フライを上げてアウトになったりしてしまいます。

でも、ベンチにもどると、仲間がかたをたたいて、「大じょうぶ。次は打てるよ。」とはげましてくれます。

うまくいかない時、一番思うことは、もっと練習すればよかったという後かきの気持ちです。でも、お母さんは、

「野球の神様が試合のじょうぶを決める。」といっています。ふだんから道具を大切にみがいたり、かぞくや仲間にあるかとうの気持ちを持つと、神様が見ていて勝たせてくれると信じています。

そして、キャッチボールをしてくれるお兄ちゃんが2人います。何もしなくてもごはんを作ってくれるおばあちゃん。「がんばれ。」と言ってくれるお姉ちゃん。野球の送りむかえをしてくれるお父さん。休みの日や大会のある日は、仕事の日よりも朝早くおきて弁当を作ってくれるお母さんがいることを、当たり前と思わずに、「ありがとう」の気持ちをもって、これからも野球をがんばります。

試合に出れなくても、ベンチの仕事をこなしてくれる友だちもいます。

一人で野球はできません。みんなへの「ありがとう」の気持ちは、わすれません。今まで周りの人にしてもらったことを自分がこんどはしてくれた人たちにあげたいです。

みんな本当にいつもありがとう!!





優秀賞

☆小学生4～6年生の部

「植樹のバトンを未来へつなぐ」

妙高高原小学校 4年 なかい なつき 中井 夏輝

わたしたち妙高高原小学校四年生は、八月三十日に杉野沢地区で植林体験をしました。杉ノ原スキー場の近くで、標高千mを越えるとても高い場所でした。そこは、素晴らしい景色が見られました。なえ木は三百本もあって、正直（そんなに植えられるのかな？）と思いましたが、みんなで力を合わせたら、あっという間に植えられました。森林組合の人達は今回よりも少ない人数で春から夏までに一万本も植えたそうです。そんなにたくさんは植えられなかったけれど、自分達も協力できて、とてもうれしかったです。

植えた木は、将来、家の材料になったり、生物多様性の維持にもつながったりするそうです。ほかにも、CO₂を吸収し、O₂を出すことで、地球温暖化を防止したり、根をはりめぐらせて土砂災害をふせいだりします。また森林にいると、いやしの効果があるため、ストレス発散にもなります。

このように、植林をすることは、人々の生活に役立ち、またとても自然にやさしいことだと思います。

ですが、そのためには、植えた後ほったらかしにしてはいけません。下草がりや間ばつをし、木がしっかりと育つようにするそうです。また、今回植えたカラマツが、木材として使われるようになるまで、六十年もかかるそうです。森林や私たちの未来を守ることは、そうかん単なことではないと分かりました。

今私たちが使っている木材は、おじいさん、おばあさん達が植えた木だと思っています。そのことを思うと、まるで植樹のバトンを受けついでいるようです。これからもずっと、植樹のバトンを未来へつないでいきたいです。





最優秀賞

☆中学生の部

「あいさつは言葉だけじゃない」


妙高高原中学校 3年 そうま相馬 だいち大智

今年の冬に、近所に外国人の家族が引っ越してきました。夫婦とその子どもの三人暮らしでした。家は少し遠かったけれど、通学路の途中にあったので、朝会ったらあいさつを試してみようと思いました。

そして次の日、旦那さんが家の前で除雪をしていたので、あいさつを試みました。でも彼は少し戸惑った様子で、そのまま作業を続けてしまいました。返されなかったのが少し気まずくて、僕も学校に向かっていきました。その後いろいろと考えてみました。自分があいさつをされたと認識していなかったのか、分かっていたけど何て言えばいいのか分からなかったのかもしれない、と。だから僕は次の日、頭を下げて、おはようございますと言ってみました。すると、僕の言葉を真似して、それらしく聞こえる言葉を言ってくれました。たぶん彼も、あいさつなんだろうと分かってくれたのです。それからは、彼からもあいさつをしてくれるようになりました。

今まで、あいさつは言葉で済ませればよいと思っていましたが、そうではなかったようです。言語が異なれば、話すという手段では伝わりにくいと思いました。少し頭を下げたり、相手の顔を見て話したりすれば、きっと分かってくれるはずです。あいさつについて見直すことができた、よい経験でした。





優秀賞

☆中学生の部

「私の大好きな水上地区のために」

新井中学校 2年 ^{いけだ}池田 ののか

みなさんは、地域行事に参加していますか。

私は水上地区に住んでいます。新型コロナウイルスの影響で、運動会や夏祭りなどの地域行事は、ほとんどなくなってしまいました。状況が落ち着いてきた今、私は以前のように地域行事を復活させたいと思っています。

中学生の私が、なぜ地域行事を復活させたいと思っているのか。理由は二つあります。

まず、行事に参加している大人たちの楽しんでいる姿を見たいからです。大人が子どもと一緒に盛り上がったり笑ったりしている様子を見てみると、心がほっこりします。「大人でもこんなに楽しめるなんて、本当に素敵な行事なんだな」とも実感でき、少し誇らしい気持ちになります。子どもだけでなく大人も、大人を見ている子どもも、みんなが楽しめる行事がまたできたらいいと感じます。

また、行事を通して、人との関わりを増やしたいと思っていますからです。小学生の頃は子ども会があったので、そこで同級生だけではなく、地域の方とも関わる機会がありました。しかし、今は子ども会のような参加できる場がないので、地域の方とのつながりが薄れてしまうのではと不安です。行事を復活させることで、今まで以上に地域の方との関わりが増やせるのではないかと考えました。

そこで私は友達と水上地区の地域づくり学習会に参加し、中学生としての思いを地域の方々に直接伝えてきました。「中学生がそう考えてくれているのは嬉しいことだね。」「確かに、良い考えだね。」などの声を直接聞くことができ、自分なりに一歩進めたな、と嬉しくなりました。地域の大人の中に混ざって、中学生である私たちが意見を出すことが、より良い地域の未来をつくるのかもしれないとも思いました。私たちの地域を、ここに住む人たちを、いつまでも大切にできるように、若い力を発揮していきたいです。次の学習会にも、友達を誘って行きたいと考えています。

あなたも、一緒に参加してみませんか。

